

就職・採用活動開始時期変更に係る 学生の就職活動等調査

調査結果（速報版・概要版）

平成 28 年 9 月
内 閣 府

この調査結果（速報版）は、現時点における議論に資するよう作成するものであり、今後、有識者を交えた分析・検討、データの更なる精査を経て、調査結果報告書を作成することとしている。

調査の概要

(1) 調査の目的

学生の学修時間の確保、留学等の促進という観点から、平成 27 年度卒業・修了予定者から就職採用活動開始時期の後ろ倒しを実施され、平成 28 年度卒業・修了予定者については、採用選考活動開始時期の変更が行われた。これを踏まえ、本年の就職・採用活動における学生の意識・行動等を把握することを目的として本調査を実施した。

(参考) 就職・採用活動開始時期の変更経緯 (大学 4 年生の場合)

	広報活動開始	採用選考活動開始
平成 26 年度卒業生	3 年生 1 2 月	4 年生 4 月
平成 27 年度卒業生	3 年生 3 月	4 年生 8 月
平成 28 年度卒業生	3 年生 3 月	4 年生 6 月

(2) 調査の実施方法

対象：大学 4 年生、大学院 2 年生

(医学科・薬学科・歯学科・看護学科・獣医学科、海外からの留学生を除く。)

方法：インターネット調査。60 程度の大学から所属対象学生に案内。

期間：平成 28 年 7 月 15 日～8 月 13 日 (8 月 1 日時点の状況を回答)

(3) 有効回答件数

大学 4 年生 : 9,242 名

大学院 2 年生 : 3,337 名 合計 12,579 名

(注) この資料中「昨年度調査」とあるのは、内閣府平成 27 年度委託調査事業「就職・採用活動開始時期の後ろ倒しに係る学生の就職活動等調査」を指すものであるが、本年度調査との比較のために、一部の項目において、公務員・教職員志望者を除いて再集計を行っており、昨年度調査の調査結果報告書等に記載された数値と異なっている。また、本年度調査は 8 月 1 日時点で実施しているが、昨年度調査は 10 月 1 日時点で実施していることにも留意が必要である。

就職活動時期変更のよい影響に関する認識

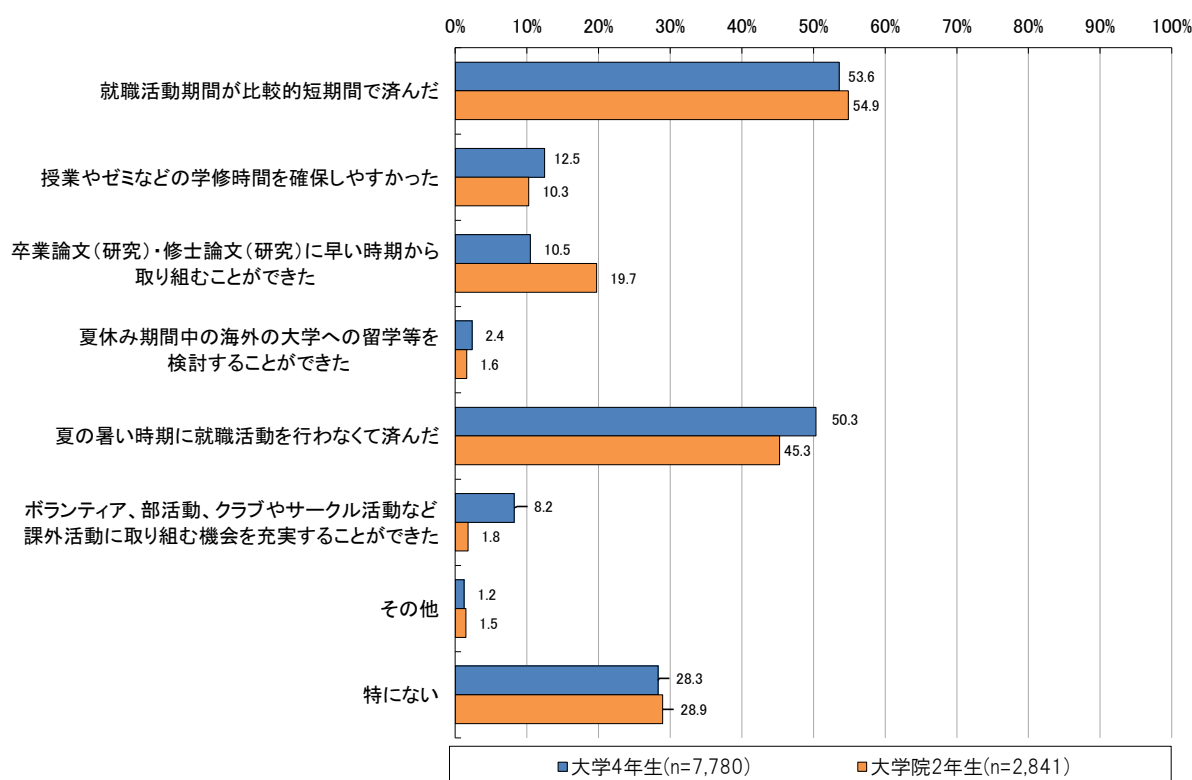
＜大学4年生の回答＞

- ① 就職活動期間が比較的短期間で済んだ 53.6%
- ② 夏の暑い時期に就職活動を行わなくて済んだ 50.3%
- ③ 授業やゼミなどの学修時間を確保しやすかった 12.5%
- ※「特にない」との回答は、28.3%。(昨年度調査は45.4%)

＜大学院2年生の回答＞

- ① 就職活動期間が比較的短期間で済んだ 54.9%
- ② 夏の暑い時期に就職活動を行わなくて済んだ 45.3%
- ③ 修士論文(研究)に早い時期から取り組むことができた 19.7%
- ※「特にない」との回答は、28.9%。(昨年度調査は49.6%)

時期変更についてよい影響があったと思うこと（最大3つまで選択）



＜参考：昨年度調査における大学4年生の回答（「後ろ倒し」についてよい影響）＞

- ① 3年生時の学修時間をより多く確保することができた 19.7%
- ② 自分の進路をよりじっくりと考える時間を持つことができた 19.3%
- ③ 企業や仕事のことを調べる時間をより多く確保できた 16.3%
- ※「特にない」との回答は、45.4%。

(注) 昨年度調査の関係図表は、本資料末尾に掲載。

就職活動時期変更に関する課題等に関する認識

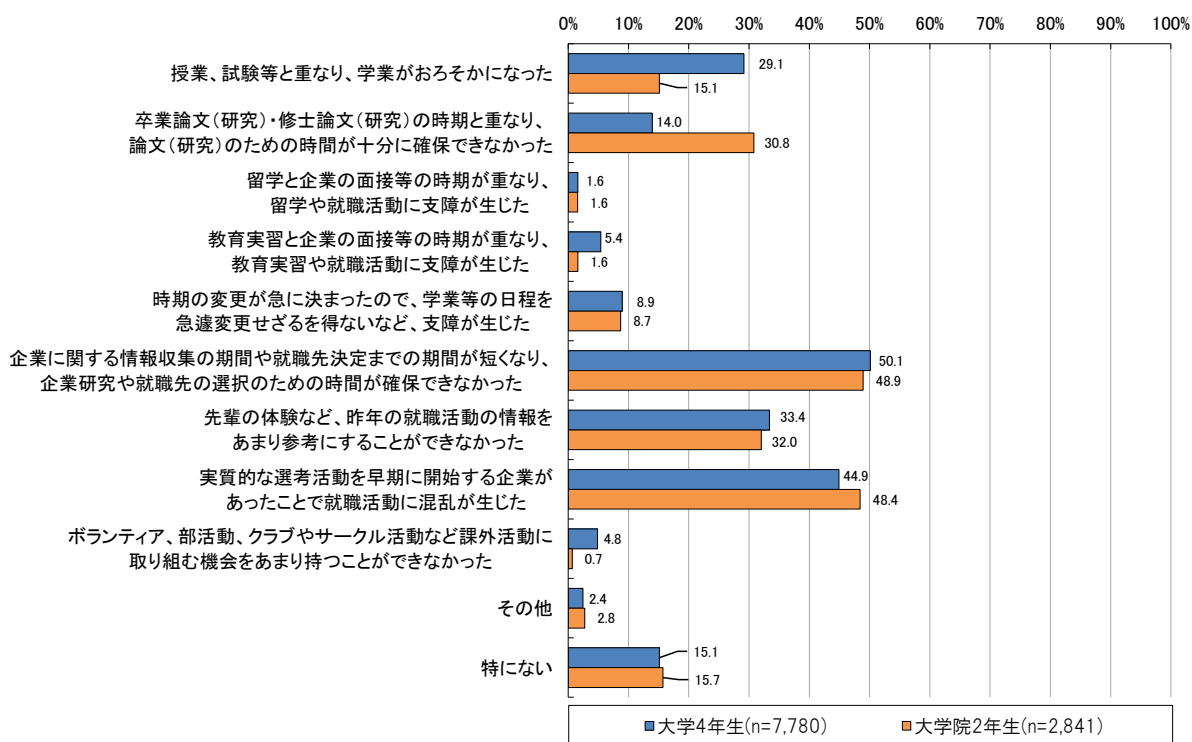
<大学4年生の回答>

- | | |
|--------------------------------|-------|
| ① 企業研究や就職先の選択のための時間が確保できなかった | 50.1% |
| ② 実質的な選考活動を早期に開始する企業があり混乱が生じた | 44.9% |
| ③ 昨年の就職活動の情報をあまり参考にすることができなかった | 33.4% |

<大学院2年生の回答>

- | | |
|--------------------------------|-------|
| ① 企業研究や就職先の選択のための時間が確保できなかった | 48.9% |
| ② 実質的な選考活動を早期に開始する企業があり混乱が生じた | 48.4% |
| ③ 昨年の就職活動の情報をあまり参考にすることができなかった | 32.0% |

時期変更について課題になったと思うこと（最大3つまで選択）



<参考：昨年度調査における大学4年生の回答（「後ろ倒し」について課題になったこと）>

- | | |
|----------------------------------|-------|
| ① 就職活動の期間が実質的に長期化し、負担が大きくなった | 57.0% |
| ② 卒業論文(研究)の時期と重なり、時間が十分に確保できなかった | 46.8% |
| ③ 大学4年生時の授業と重なり、授業がおろそかになった | 35.9% |
| ④ どのように就職活動に臨めばよいかよくわからなかった | 32.7% |

<参考：昨年度調査における大学院2年生の回答（「後ろ倒し」について課題になったこと）>

- | | |
|------------------------------------|-------|
| ① 修士論文(研究)の時期と重なり、時間が十分に確保できなかった | 70.3% |
| ② 就職活動の期間が実質的に長期化し、負担が大きくなった | 59.2% |
| ③ どのように就職活動に臨めばよいかよくわからなかった | 27.0% |
| ④ 就職先決定までの期間が短くなり、就職先が決まらない可能性があった | 19.9% |

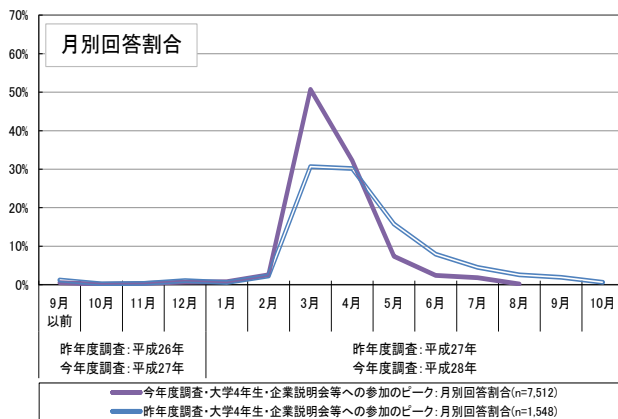
(注) 昨年度調査の関係図表は、本資料末尾に掲載。

企業説明会等参加、エントリーシート提出の時期

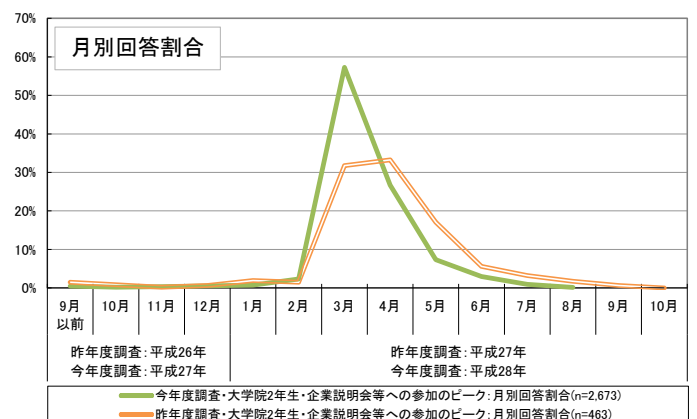
<企業説明会やセミナー等の参加時期>

企業説明会やセミナー等への参加のピークの時期について、昨年に比べ、3月と回答する学生の割合が大幅に増加する一方で、5月以降の回答は大きく減少している、

(大学4年生)



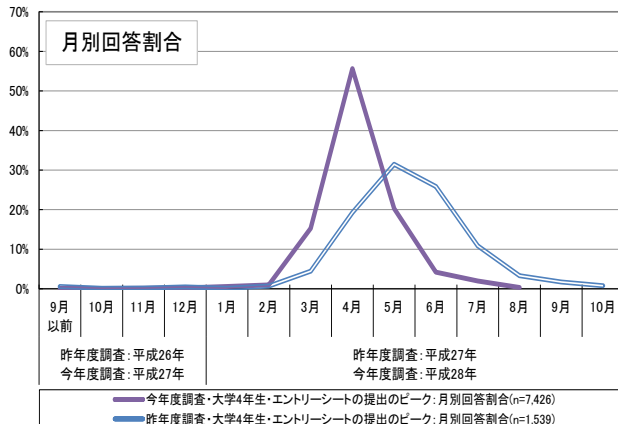
(大学院2年生)



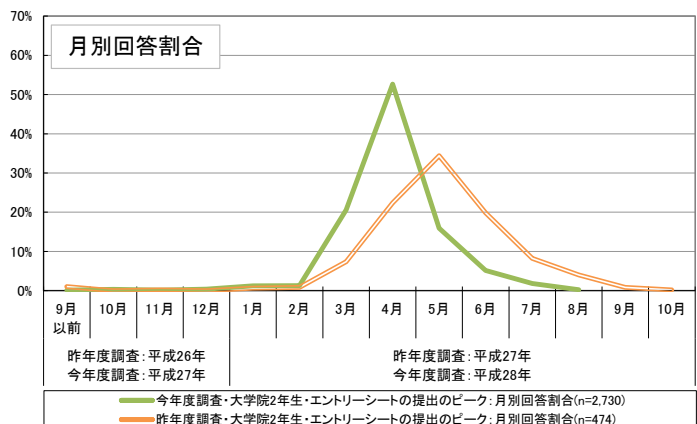
<エントリーシートの提出時期>

エントリーシートの提出のピークの時期について、昨年に比べ、4月と回答する学生が大幅に増加し、最大になる一方で、5月以降の回答は大きく減少している。

(大学4年生)



(大学院2年生)



採用面接の実施時期

(注1) 公務員・教職員志望を除いて集計している。

(注2) 「面談」や「相談会」などの名称の下に行われた企業との接触について、それが実質的に「採用面接」だと感じた場合は、当該接触を「採用面接」と考えて回答いただくよう案内した上で調査を行った。

＜最初に採用面接を受けた時期＞

- ・ 3月、4月が多い。(大学4年生は約67%。大学院2年生は約70%)

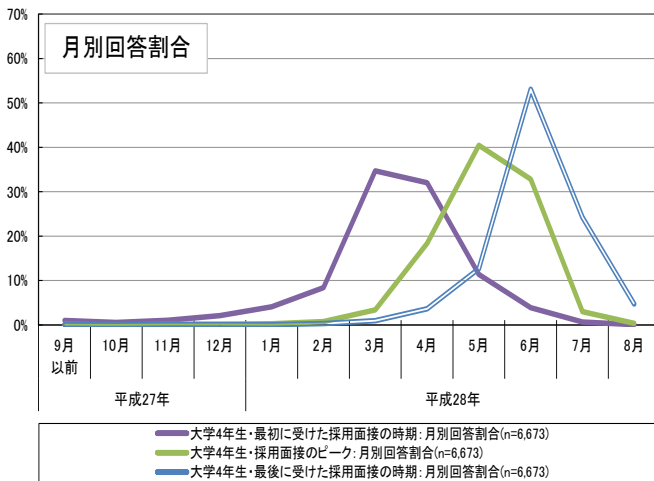
＜採用面接のピーク＞

- ・ 大学4年生 : 5月が約4割で最も多く、次いで6月が多い。
- ・ 大学院2年生 : 5月が約4割で最も多く、次いで4月、6月の順に多い。

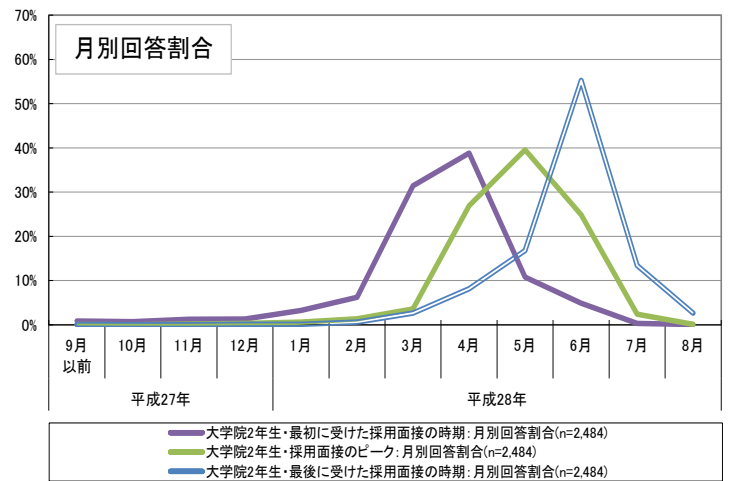
＜最後に面接を受けた時期＞

- ・ 大学4年生 : 6月が約5割で最も多く、次いで7月、5月の順に多い。
- ・ 大学院2年生 : 6月が約5割で最も多く、次いで5月、7月の順に多い。

(大学4年生・本年度調査)

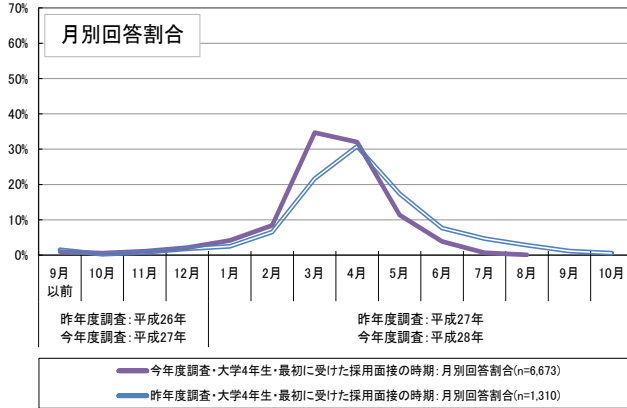


(大学院2年生・本年度調査)

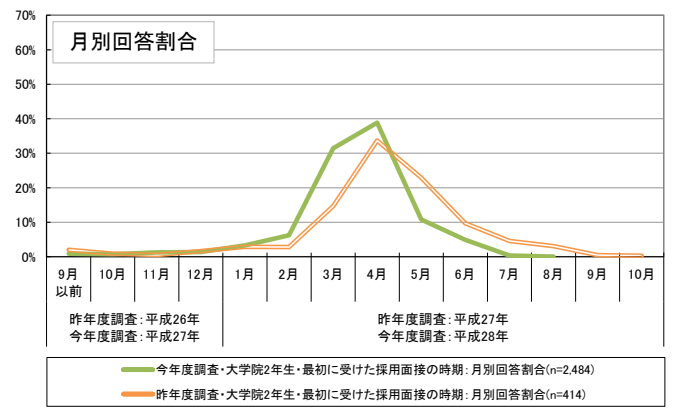


【参考：各項目における今年度調査と昨年度調査の比較（採用面接時期関係）】

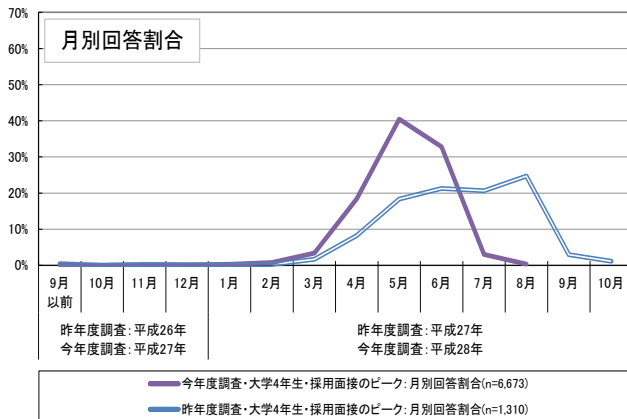
＜大学4年生・最初に受けた時期＞



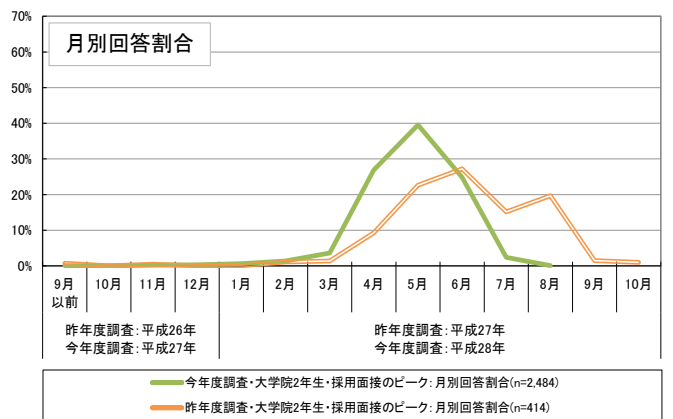
＜大学院2年生・最初に受けた時期＞



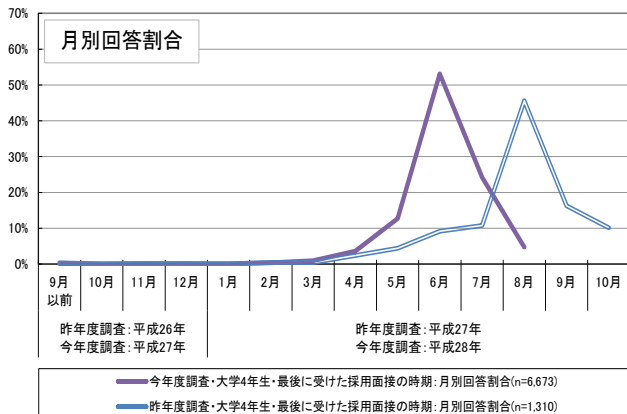
＜大学4年生・採用面接のピーク＞



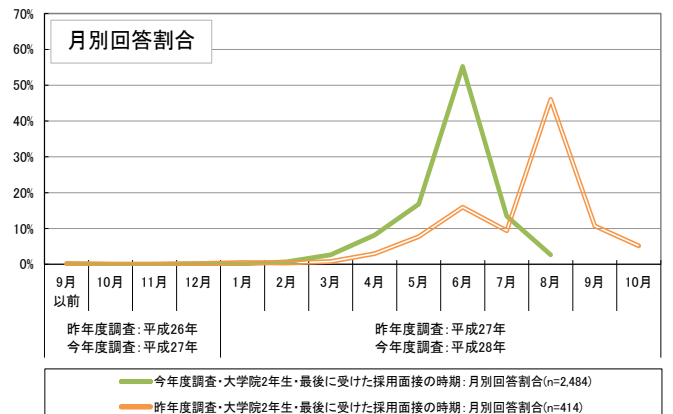
＜大学院2年生・採用面接のピーク＞



＜大学4年生・最後に受けた時期＞



＜大学院2年生・最後に受けた時期＞

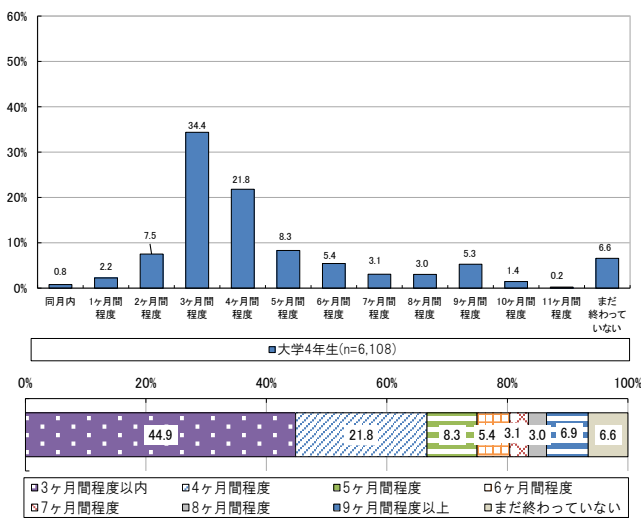


就職活動の始まりから終わりまでの期間

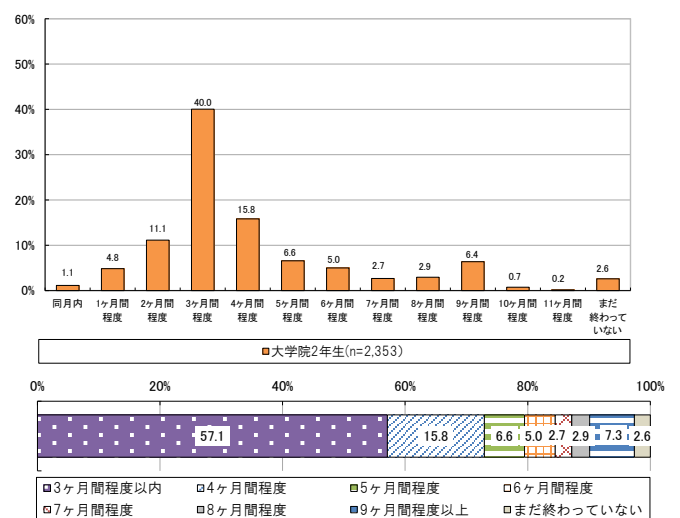
(注)「就職活動が始まったと考える時期」から「就職活動が終わったと考える時期」の間の期間を集計しており、例えば始まったと考える時期を「3月」、終わったと考える時期を「6月」と回答した場合は、「3ヵ月間程度」として集計している。

就職活動の始まりから終わりまでの期間について、昨年度は、5ヶ月間程度が最も多く、5ヶ月間程度以上に該当する学生が7割を超えていたが、今年度は、3ヶ月間程度が最も多く、4ヶ月間程度以内に就職活動を終えたものが約7割となっている。

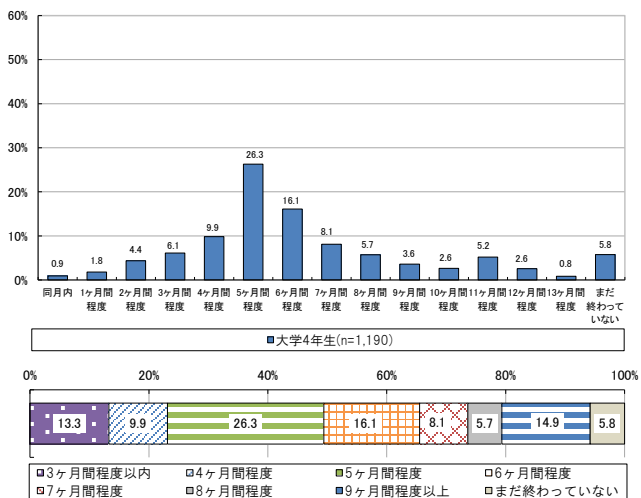
＜本年度調査・大学4年生＞



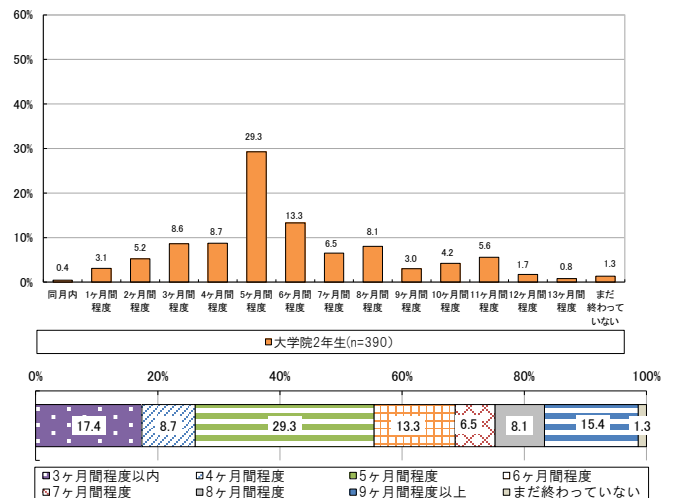
＜本年度調査・大学院2年生＞



＜昨年度調査・大学4年生＞



＜昨年度調査・大学院2年生＞

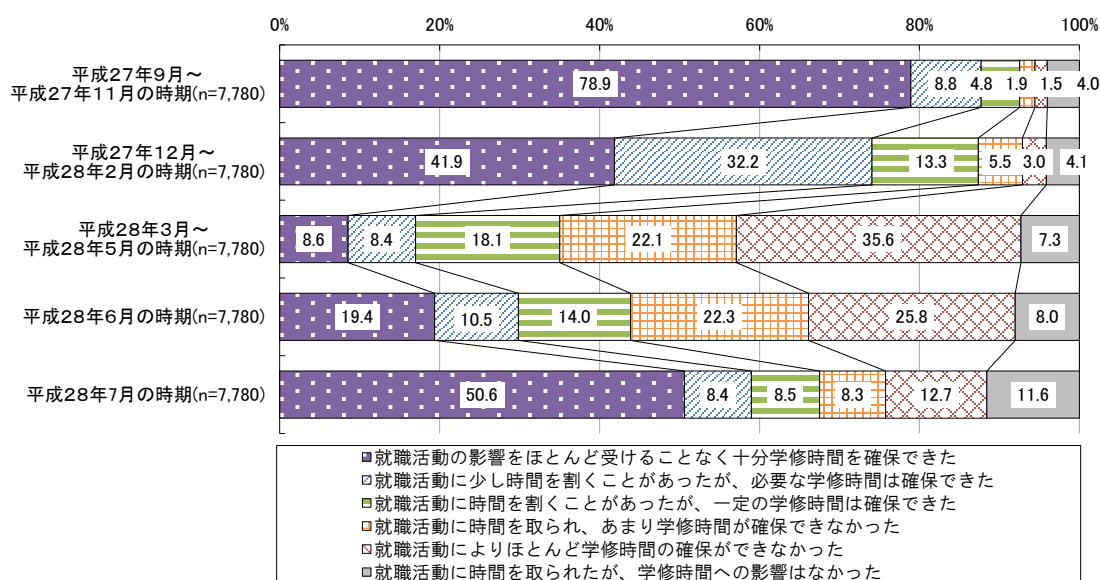


就職活動と学修時間確保の状況

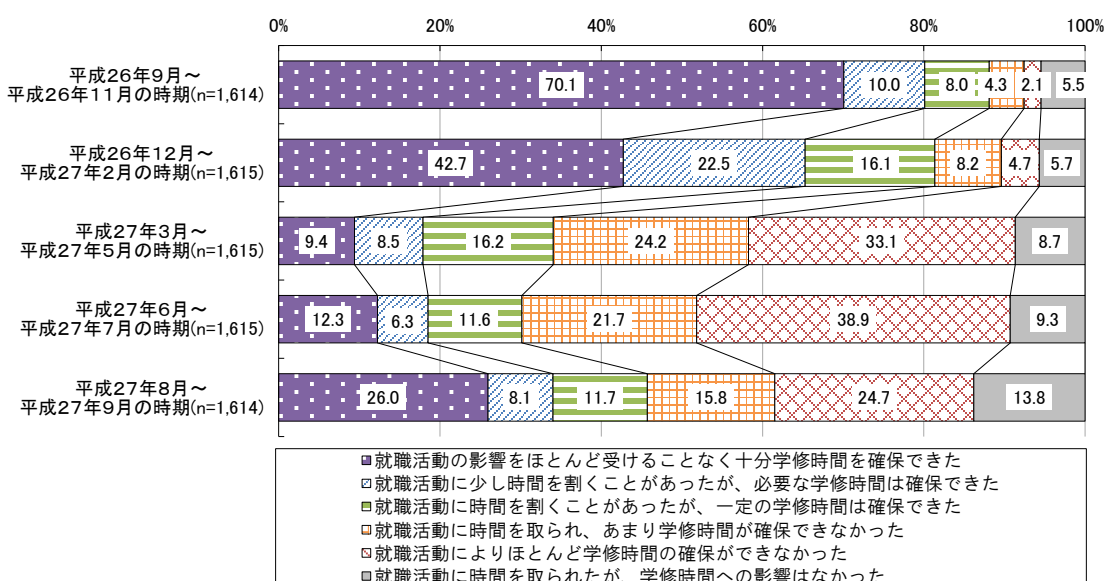
○2月までは、多くの学生が学修時間を確保できた。(昨年度よりも増加)

○3月から5月までは、昨年度と同様に、半数以上の学生が学修時間の確保が困難だったと回答しているが、本年度は、6月以降の学修時間の確保に改善がみられ、7月には、半数以上の学生が、就職活動の影響をほとんど受けることなく十分学修時間を確保できたと回答している。

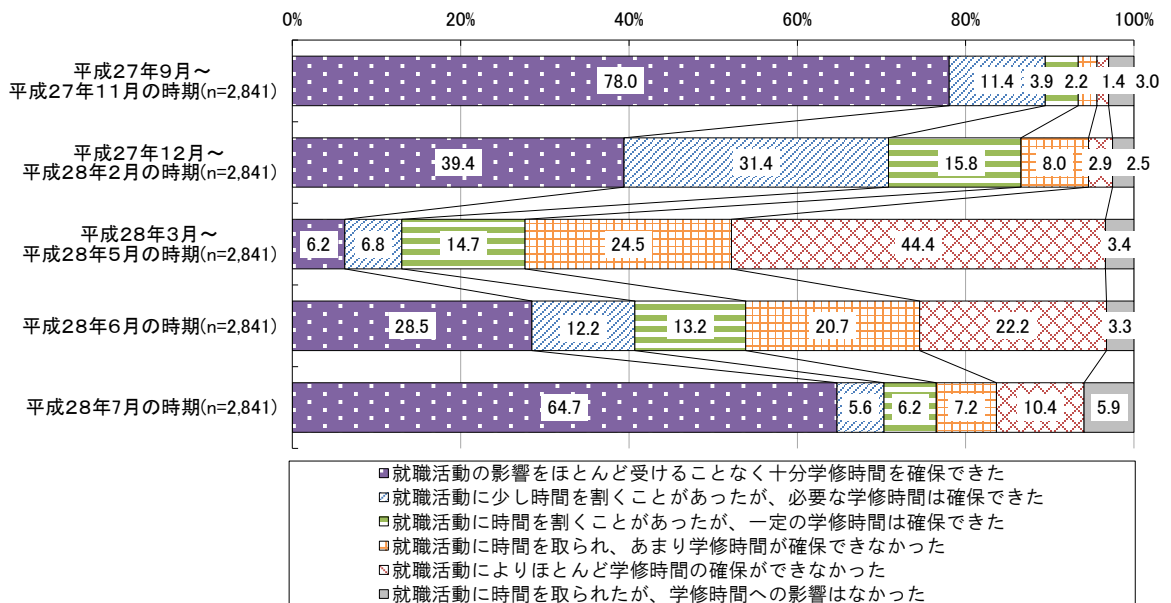
就職活動と学修時間確保の状況（大学4年生・本年度）



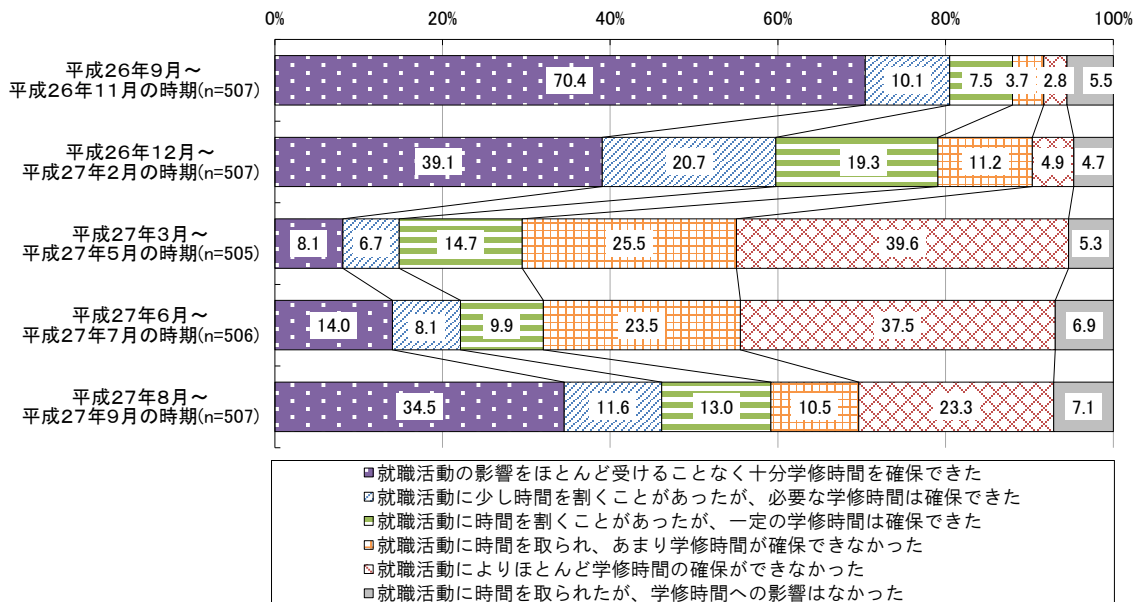
＜参考：大学4年生・昨年度＞



就職活動と学修時間確保の状況（大学院2年生）



<参考：大学院2年生・昨年度>

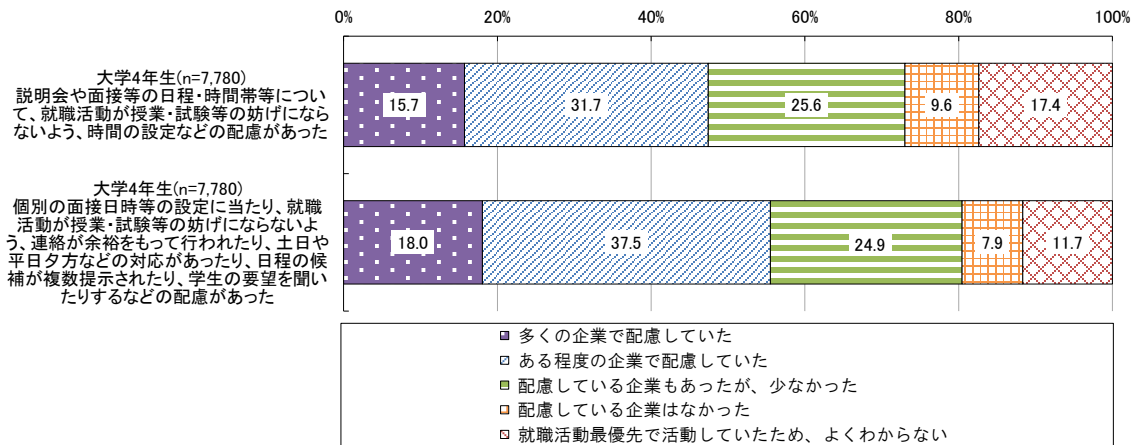


学生の学業等への配慮

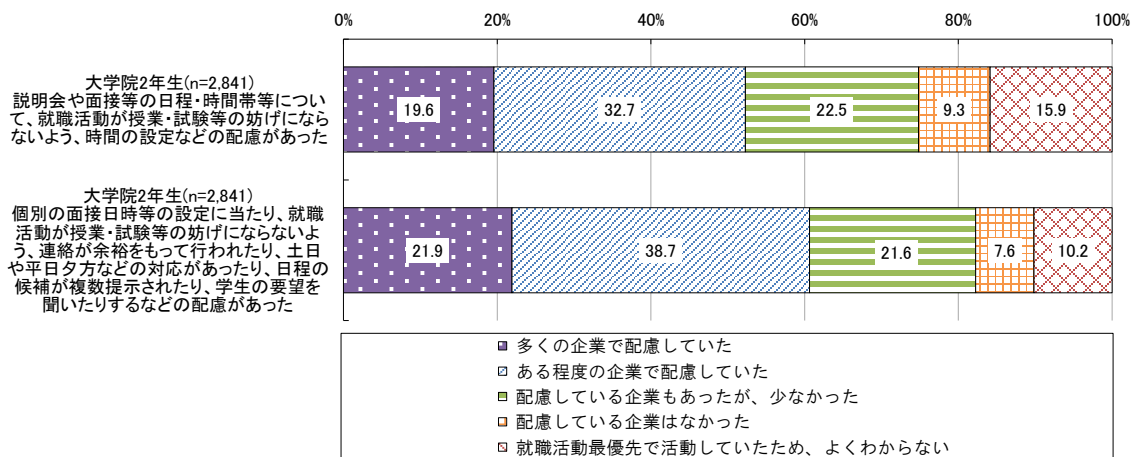
○学生の学業等への配慮について、半数程度以上の学生が、多くの企業又はある程度の企業で、日程上の配慮がされていたと回答。

(就職活動最優先の学生を母数から除くと、6割程度以上。)

就職活動を行った企業における時間や日程等に関する配慮の状況（大学4年生）



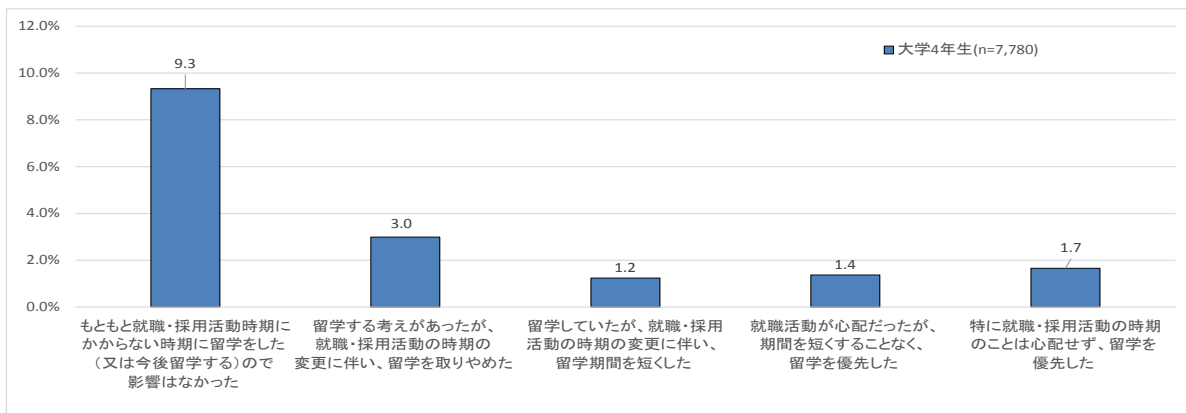
就職活動を行った企業における時間や日程等に関する配慮の状況（大学院2年生）



留学経験者への配慮

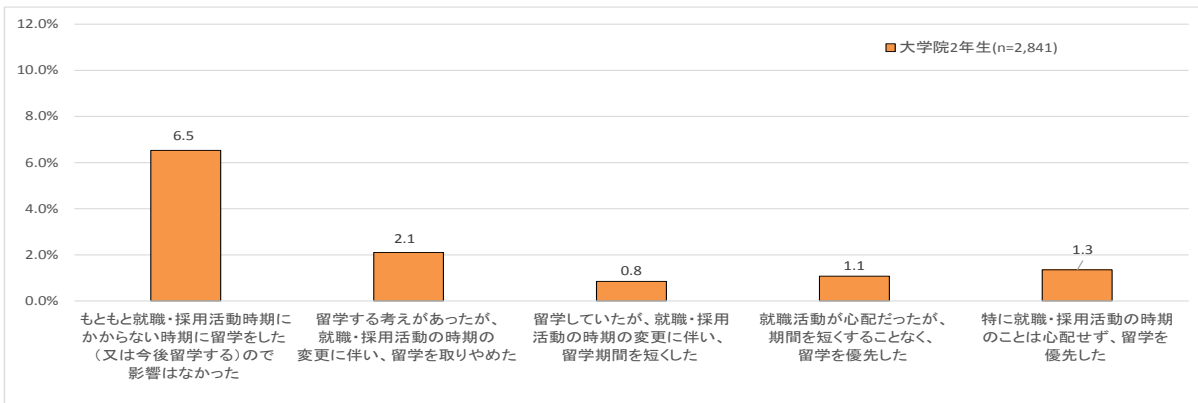
- 大学4年生においては、9.3%がもともと就職・採用活動時期にかからない時期に留学をしたため影響がなかったと回答し、3.0%が就職・採用活動時期の変更に伴い、留学を取りやめたと回答。
- 実際に就職・採用活動時期に留学を行った学生のうち、「わからない」と回答した者を除き、約半数が多く企業の企業又はある程度の企業で留学により不利にならないように配慮されていたと回答。

留学経験者（検討していた者）への影響（大学4年生）



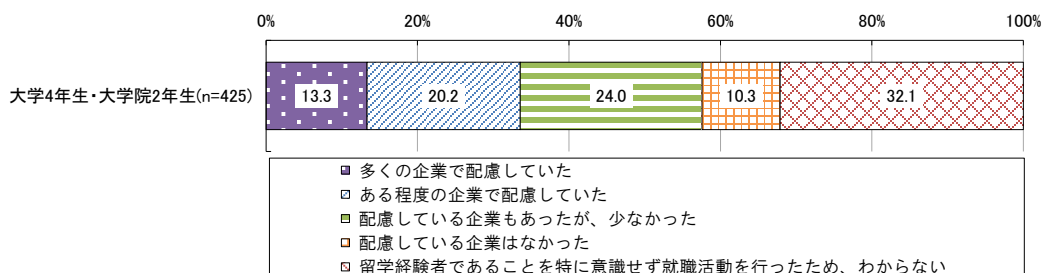
※全体の83.4%は「もともと留学する予定はなく、留学はしていない」と回答

留学経験者（検討していた者）への影響（大学院2年生）



※全体の88.0%は「もともと留学する予定はなく、留学はしていない」と回答

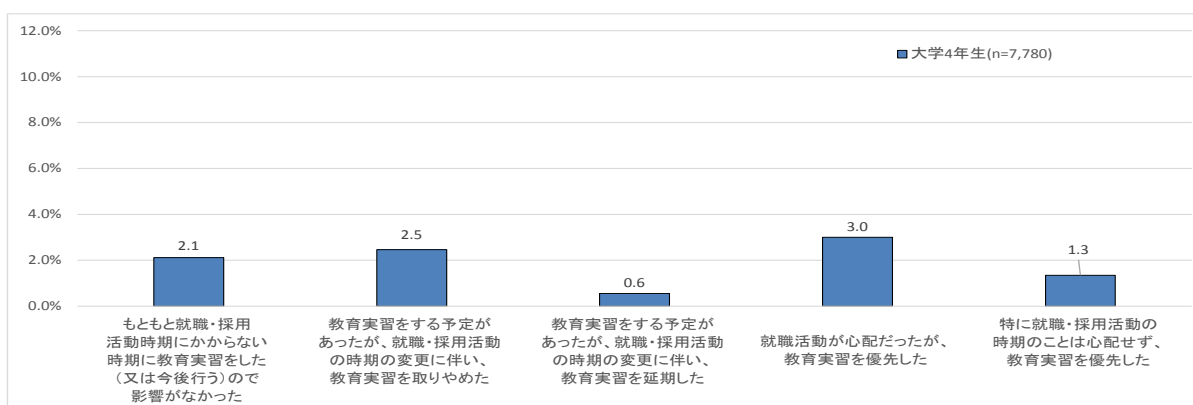
企業側から留学経験者に対する配慮の状況



教育実習受講者への配慮

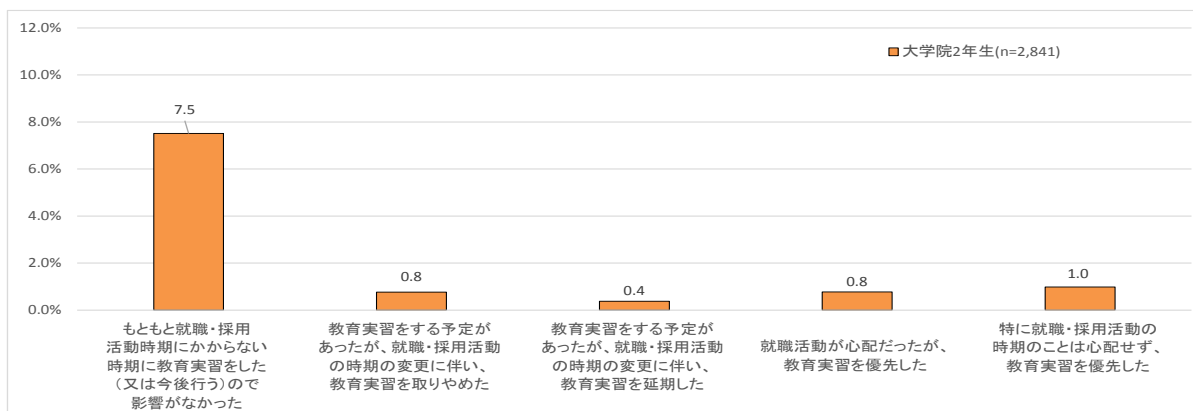
- 大学4年生においては、3.0%が就職活動が心配だったが、教育実習を優先したと回答し、2.5%が就職・採用活動時期の変更に伴い、教育実習を取りやめたと回答。
- 実際に就職・採用活動時期に教育実習を受講した学生のうち、「わからない」と回答したものを除き、約35%が多くの企業又はある程度の企業で教育実習の妨げにならないように配慮されていたと回答。

教育実習受講者（検討していた者）への影響（大学4年生）



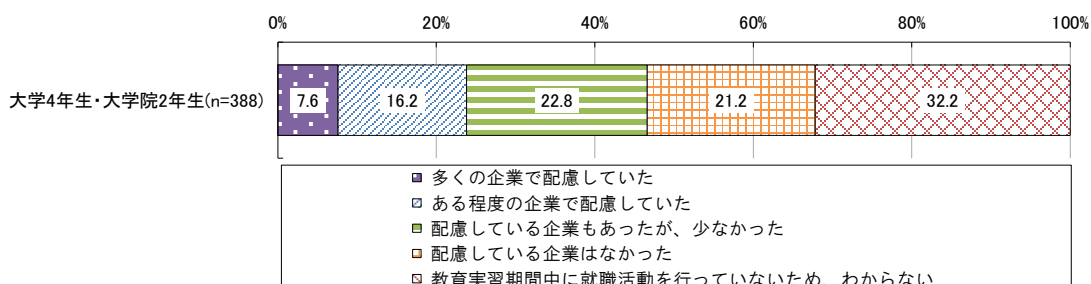
※全体の90.5%は「教育実習を考えておらず、教育実習を受講していない」と回答

教育実習受講者（検討していた者）への影響（大学院2年生）



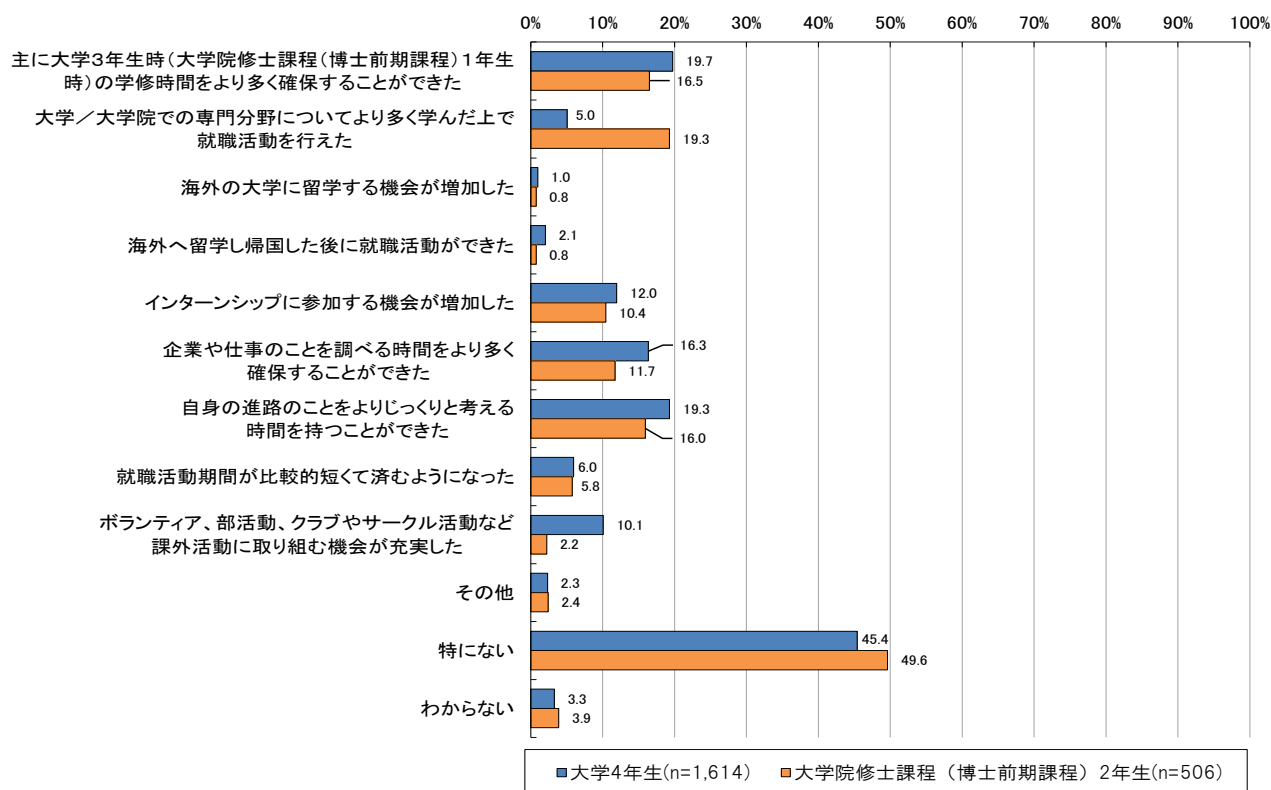
※全体の89.5%は「教育実習を考えておらず、教育実習を受講していない」と回答

企業側から教育実習受講者に対する配慮の状況



(参考図表) 昨年度調査における「就職活動時期後ろ倒し」のよい影響・課題について (P 2、3 関係)

<「後ろ倒し」について良い影響があったと思うこと>



<「後ろ倒し」について課題になったと思うこと>

